

大学等名	大手前大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部、**経営学部**、健康栄養学部

③ 修了要件

「情報活用 I」1単位および「AI・データサイエンスの扉」2単位の合計3単位を取得すること。

必要最低単位数 3 単位

履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○					
情報活用 I	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンスの扉	2	○	○	○	○						
情報活用 I	1	○			○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する(「AI・データサイエンスの扉」第1回) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、Society 5.0、データ駆動型社会(「AI・データサイエンスの扉」第1回)
	1-6	・AI・データ利活用の最新動向を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・ニューラルネットワークと深層学習(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・画像認識に使用されるCNNとGAN(「AI・データサイエンスの扉」第6回) ・複数のデジタル技術の組み合わせによる取り組み(「AI・データサイエンスの扉」第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・代表的なデータの分類(量的データ、質的データ、フローデータ、ストックデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・データとその取得方法(IoT、センサー、オープンデータ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・1次データ、2次データ、3次データ(「AI・データサイエンスの扉」第2回) ・ビッグデータの種類(構造化データ、非構造化データ)(「AI・データサイエンスの扉」第2回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(「AI・データサイエンスの扉」第3回) ・Society5.0社会で実現する技術(医療分野、交通分野、食品分野、エネルギー分野、防災分野)(「AI・データサイエンスの扉」第1回) ・企業におけるAI・データの利活用事例(「AI・データサイエンスの扉」第3回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習)(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・非構造化データ(音声・テキスト)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回) ・非構造化データ(画像・動画)の処理(「AI・データサイエンスの扉」第4回)
	1-5	・AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第5回) ・データサイエンスのサイクル(PPDACサイクルとマーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回) ・AI・データ利活用の事例(スポーツ、物流、マーケティング)(「AI・データサイエンスの扉」第5回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・AI・データを活用する際の負の側面について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・GDPR (General Data Protection Regulation) (「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) (「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・データ倫理、AIの倫理指針(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・AI・データサイエンスの倫理(「AI・データサイエンスの扉」第12回) ・情報の盗用、ねつ造・改ざん(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・プライバシー保護(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第1回)
	3-2	・データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)(「AI・データサイエンスの扉」第13回、「情報活用 I」第1回) ・ハッキング、不正アクセス(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・コンピュータウイルス(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・個人情報保護法、匿名加工情報(「AI・データサイエンスの扉」第13回) ・認証の三要素(「AI・データサイエンスの扉」第14回) ・暗号化(共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式)(「AI・データサイエンスの扉」第14回) ・情報セキュリティとモラル(「情報活用 I」第2回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	・データの種類を知り、連続データ、離散データ、量的データ、質的データについて学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・データに含まれる誤差の取り扱い、統計情報の正しい理解について学習する(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・回帰、相関、因果(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・母集団と標本(「AI・データサイエンスの扉」第8回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「AI・データサイエンスの扉」第9回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、変動係数)(「AI・データサイエンスの扉」第9回) ・5数要約と箱ひげ図(「AI・データサイエンスの扉」第9回)
	2-2	・データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの信頼性(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・記述統計と推測統計(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・統計データの抽出方法(単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出)(「AI・データサイエンスの扉」第10回) ・二つの質的データの関係(独立性検定、カイ 2乗検定)(「AI・データサイエンスの扉」第10回)
	2-3	・不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの集計(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの並び替え、ランキング(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・質的データの図表表現(名義尺度、順序尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・量的データの図表表現(間隔尺度、比例尺度)(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・不適切なデータの表現(「AI・データサイエンスの扉」第11回) ・データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習(「情報活用 I」第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

- ・具体的な例を交えて、AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
- ・AIやおよびデータのを利活用における求められるモラルや倫理観の重要性を認識し、それらを向上させることができる。
- ・単純簡易なデータに対してについてはデータを統計的に集計や、可視化を行うことができる。

大学等名	大手前大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際看護学部

③ 修了要件

「情報活用Ⅰ」1単位および「情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）」1単位の合計2単位を取得すること。
--

必要最低単位数	2	単位	履修必須の有無	令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施
---------	---	----	---------	--------------------------------

- ④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報活用Ⅰ	1	○	○	○					
情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）	1	○	○						

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報活用Ⅰ	1	○		○					
情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）	1	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報活用Ⅰ	1	○	○						
情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）	1	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報活用Ⅰ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報活用 I	1	○		○	○						
情報活用 II (含医療情報の統計学)	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・デジタル社会の概要(Society 5.0、ビックデータ、AI、IoT) (「情報活用 I」第1回) ・社会で起きている変化を知り、データサイエンス、AIを学ぶ意義を認識する(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)
	1-6	・AI最新技術の活用例(ディープラーニング、強化学習) (「情報活用 I」第1回) ・医療・看護分野におけるAI活用事例(「情報活用 I」第1回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・健康に関する統計(1次データ、2次データ、データのメタ化) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回) ・医療・看護分野における調査・実験データ(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(医療・看護分野での活用事例) (「情報活用 I」第1回) ・医療・看護分野におけるデータの活用(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ可視化 (「情報活用 I」第12回) ・非構造化データ処理(動画処理) (「情報活用 I」第14回) ・AI・データ活用のための技術(統計的手法、機械学習) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回)
	1-5	・医療・看護分野におけるデータ・AI利活用事例紹介(「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第1回) ・データサイエンスのサイクル(データ解析と推論、結果の共有、課題解決に向けた提案) (「情報活用 II (含医療情報の統計学)」第14回)

(4)活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI(Ethical、Legal and Social Issues)(「情報活用Ⅰ」第2回) ・AIの倫理指針(「情報活用Ⅰ」第2回) ・AI・データサイエンスの倫理(「情報活用Ⅰ」第2回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(「情報活用Ⅰ」第2回)
	3-2	・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)(「情報活用Ⅰ」第2回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(「情報活用Ⅰ」第2回)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	・統計データの種類(連続、離散、量的、質的)(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第1回) ・データの特徴(度数分布)(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第3回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、変動係数)(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第4回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第5回) ・箱ひげ図(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第5回) ・母集団と標本(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第6回) ・回帰、相関、因果(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第7回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、円グラフ)(「情報活用Ⅰ」第12回) ・不適切なグラフ表現(「情報活用Ⅰ」第12回) ・基本統計量(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第4回)
	2-3	・データの抽出方法(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第2回) ・データ解析ツール(Excelの分析ツール)(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第3回、第4回) ・データの集計(「情報活用Ⅰ」第9回) ・データの並び替え(「情報活用Ⅰ」第9回) ・データの取り扱い(txt形式、csv形式)に関する演習(「情報活用Ⅰ」第14回) ・Excelを用いたデータの分析(「情報活用Ⅱ(含医療情報の統計学)」第7回、第8回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

- ・AIやデータサイエンスの社会的役割とその活用について具体例を示して説明することができる。
- ・AIおよびデータを利活用する際に求められるモラルや倫理観を向上することができる。
- ・簡易なデータについてはデータを統計的に集計、可視化することができる。

開講年度	2023	開講学期	春学期	
科目コード	ZB0083	授業コード	40688	
科目名	AI・データサイエンスの扉（オンデマンド型／月曜日配信）		開講曜日・時限	集中講義
担当教員名【代表】	伊勢 智彦			
担当教員				
授業形態	講義			
単位数	2単位			
メジャー名	該当メジャーは、入学年度の履修ガイドを確認すること。			
授業の目的	デジタル社会において、AIやデータサイエンスを日常生活、仕事で使いこなすことができる基礎的知識について学ぶ。学修した知識・技能をもとに自ら適切な判断ができ、各分野においてAIやデータサイエンスの恩恵を享受し、その有用性を説明できるようになることが目標である。			
授業の内容				
①能力開発メソッド	AI, データサイエンス, データ活用			
②課題レポート等	講義中の指示に従って各自で調査を行い、その内容をまとめる			
③授業概要	現代社会における我々の生活の変化について、AIとデータサイエンスの観点から、実例を取り上げながら講義する。AI・データサイエンスはSociety5.0社会における汎用技術（GPT（General Purpose Technology））となることを踏まえ、知見を広げることを意識して受講すること。			
授業時間外学習	・②の内容の実施 ・シラバスの内容に関する予習			
授業計画				
	目的	主題	概要	授業時間外学習
01	知識／能力	イントロダクション	授業概要の説明 社会で起きている変化を知り、データサイエンス, AIを学ぶ意義を認識する	データサイエンス, AIの概要に関する調査
02	知識／能力	社会で活用されているAI・データの概要	我々の身の周りでは多種多様なデータが集められていること、そしてそれがどのように活用されているかを学習する	身の周りで使用されているAI・データの種類を調査してまとめる
03	知識／能力	AI・データの活用領域	我々の身の周りの様々な領域でデータが活用されていることを学習する	身の周りで使用されているAI・データの活用領域を調査してまとめる
04	知識／能力	AI・データ活用のための技術	我々の身の周りで使用されている技術の概要を学習する	講義中に取り上げたもの以外でのAI・データ利活用の技術を調査してまとめる
05	知識／能力	AI・データ活用の現場	AI・データを活用することによって生まれる価値について学習する	講義中に取り上げたAI・データ活用の現場をまとめるとともに、他の事例を調査する
06	知識／能力	AI・データ活用の最新動向	AI・データ利活用の最新動向を学習する	講義中に取り上げたAI・データ利活用の最新動向をまとめ、他の事例を調査する
07	知識／能力	前半のまとめ	社会におけるAI・データ利活用についてまとめる	前半の内容を振り返り、内容をまとめる
08	知識／能力	データを読む(1)	データの種類を知り、連続データ, 離散データ, 量的データ, 質的データについて学習する	講義中に取り上げたデータの種類について具体例を調査する

			る	
09	知識／能力	データを読む(2)	データに含まれる誤差の取り扱い統計情報の正しい理解について学習する	講義中に取り上げたデータの種類について具体例を調査する
10	知識／能力	データを説明する	データの表現方法、不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	講義中に取り上げたデータ表現方法について、各自でデータを用いて作成する
11	知識／能力	データを扱う	不適切なグラフ表現と優れた可視化事例について学び、サンプルデータを用いて適切な表現方法を学習する	講義中に取り上げたデータの取り扱いについて、サンプルデータを用いて作業する
12	知識／能力	AI・データを扱う上での留意事項	AI・データを活用する際の負の側面、GDPR, ELSI等について学習する	AI・データを取り扱う際の留意事項をまとめ、トラブル事例等について調査する
13	知識／能力	データを守る上での留意事項	データ、AI利活用に関する情報セキュリティの基礎として、セキュリティとリスクの関係性、情報のCIA等について学習する	AI・データ利活用に関するセキュリティに関してまとめ、事例等を調査する
14	知識／能力	総合演習	AI・データサイエンスに関する総合演習を行い、知見を深める	総合演習の内容をまとめ、必要があれば再提出する
15	知識／能力	AI・データサイエンスに関する総まとめ	これまで学んだAI・データサイエンスに関して総まとめを行い、最終課題に取り組む	総まとめの内容と最終課題についてまとめ、今後の学修に活用する

到達目標と学習成果

①知識レベル	AIの概要と現状を説明できる データサイエンスの概要と現状を説明できる
②能力レベル	AIの新たな活用方法を検討できる データの適切な表現方法を選定できる

C-PLATS (Level)到達基準

コミュニケーション		プレゼンテーション		リーダーシップ		行動力	
創造力	2	計画力	1	論理的思考力	2	分析力	2
チームワーク力		社会的責任	3				

成績評価の基準と方法	この科目の評価は、講義内容に関する毎回の小テストと課題の結果で評価する。 小テストの合計: 50% 中間課題: 25% 期末課題: 25% 60%以上をD、70%以上をC、80%以上をB、90%以上をAとする。
教科書	とくになし（教員が作成した資料を適宜配布する）
参考図書	講義中に必要に応じてする
授業に関する質問等の方法	履修前はメールにて質問や相談を受け付ける。 履修確定後は主にMicrosoft Teamsのチャットを用いる。
備考	

開講年度	2023	開講学期	春学期
科目コード	ZA0007	授業コード	40076
科目名	情報活用 I	開講曜日・時限	月曜2限
担当教員名【代表】	中崎 修一 (Shuichi Nakazaki)		
担当教員			
授業形態	演習		
単位数	1単位		
メジャー名	-		

授業の目的	本学の情報教育環境やネットワーク環境（OCNET）について理解し、el-Campus、大手前Gmail、Microsoft Teams/OneDriveなどをスムーズに使用できるようになることを目的とする。 また、PC操作の基本であるタッチタイピングの速度を向上させること、『Microsoft Word』、『Microsoft Excel』、『Microsoft PowerPoint』の基本操作を身に付けることなどを目的とする。
-------	--

授業の内容	
-------	--

①能力開発メソッド	繰り返し学習、強化学習、目標設定
②課題レポート等	ほぼすべての回で、授業で習った知識を基にした技術習得を目的とした課題を出題する。 さらに、次回に向けての予習課題も設定する。
③授業概要	本授業では、『本学のPC環境やネットワーク環境（OCNET）についての説明および操作』、『タッチタイピング技術の向上』、『Microsoft Word / Excel / PowerPoint 基本操作学習』などを行う。 また、成績評価対象となる課題作成や試験を行う。 授業方法として、各自所有のパソコンを持参することを前提とする。

授業時間外学習	教科書に準拠した動画教材（el-Campus上で閲覧可能）を活用し、予習をする事を前提とする。 ほとんどの学生にとって、単位習得のためには授業時間外の学習や課題作成がとても重要となる。 『単位習得』、『タイピング速度向上』、『情報リテラシーの修得』などを目指して、自分自身の力量と相談しながら学修をコントロールすること。
---------	---

授業計画	
------	--

	目的	主題	概要	授業時間外学習
01	知識／能力	ガイダンス OCNET利用案内 セキュリティとモラル	本授業の目的や成績評価方法などについて PCの取り扱いについて タッチタイピング セキュリティと情報モラル (1)	OCNET利用ガイドを読む タッチタイピング練習課題
02	知識／能力	ファイル操作の基本	セキュリティと情報モラル (2) フォルダとファイルの管理 OneDriveの利用 PCとスマートフォンの連携	ファイル操作に関する課題 タッチタイピング練習課題 電子メールに関する課題
03	知識／能力	電子メール Microsoft Teams	電子メール（送受信・署名作成） Microsoft Teams（ビデオ会議を含む）	メールの送受信に関する課題 Microsoft Teamsを利用する課題 Microsoft Wordに関する課題
04	知識／能力	Microsoft Word (1) 入力、書式	文書入力、書式の設定(フォントの色やサイズの変更、インデント、タブ、均等割り付けなど)	文書作成課題
05	知識／能力	Microsoft Word (2) 表、罫線、図	表作成、各種図の取り扱い、ページ罫線など	文書作成課題

06	知識／能力	Microsoft Word (3) ページ体裁	ヘッダー・フッター、箇条書き、段落番号など	文書作成課題 Microsoft Word まとめ課題（必須課題） Microsoft Excelに関する課題
07	知識／能力	Microsoft Excel (1) 基本操作	基本操作説明 入力、表の作成	表計算課題
08	知識／能力	Microsoft Excel (2) 数式、セル参照	数式入力、相対参照・絶対参照	表計算課題
09	知識／能力	Microsoft Excel (3) 関数	数式およびセル参照の復習 関数の利用	表計算課題
10	知識／能力	Microsoft Excel (4) グラフ作成	グラフ作成	表計算課題 Microsoft PowerPointに関する課題
11	知識／能力	Microsoft PowerPoint (1) スライド作成	プレゼンテーションの基礎 スライド作成 (1)	スライド作成課題
12	知識／能力	Microsoft PowerPoint (2) アニメーション スライドショー	スライド作成 (2) アニメーション、印刷、スライドショー	スライド作成課題 Microsoft PowerPoint まとめ課題（必須課題）
13	知識／能力	データ・リテラシー基礎	データの取り扱いに関する演習 Microsoft Officeの連携 差し込み印刷	データ・リテラシーに関する Microsoft WordとExcelの両方を活用する課題
14	知識／能力	応用演習	Microsoft Excel応用演習 動画の収録・編集について	表計算課題 レポート作成課題
15	知識／能力	まとめ	タイピング速度試験 Microsoft Word, Excel, PowerPoint まとめ試験	ふりかえり課題

到達目標と学習成果

①知識レベル	OCNETの利用方法の習得 Microsoft Wordの基本操作習得 Microsoft Excelの基本操作習得 Microsoft PowerPointの基本操作習得 データ・リテラシーの基本習得
②能力レベル	Word, Excel, PowerPointの修得を基本とした情報リテラシー能力の向上 パソコンを活用し、目的の達成を目指す

C-PLATS (Level)到達基準

コミュニケーション		プレゼンテーション		リーダーシップ		行動力	2
創造力		計画力	1	論理的思考力		分析力	
チームワーク力		社会的責任	1				

成績評価の基準と方法	この授業の評価は、毎回の授業時に指示する授業課題、3回行う大課題、および試験の結果で評価する。 おおまかな評価基準は次の通りだが、試験や課題の評価点によって調整される。 ・A評価： 各回の授業課題10割提出、大課題完成、試験平均8割、タイピング速度評価点 ・B評価： 各回の授業課題8割提出、大課題完成、試験平均7割、タイピング速度評価点 ・C評価： 各回の授業課題6割提出、大課題完成、試験平均5割、タイピング速度評価点 ・D評価： 各回の授業課題提出が6割未満、大課題の提出遅れ、試験5割未満、その他 ・F評価： D評価に満たないもの、または欠席が多い等の単位取得に相応しく無いもの Microsoft Word / Excel / PowerPoint の大課題を一つでも提出していない場合、単位取得できません
------------	---

	せん。 課題でわからない事がある場合は、学修支援センターを活用すること。 ※評価の詳細については、第1回授業時に説明する。
教科書	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice365・Office2019対応 著者／制作 noa出版 発行所 株式会社ワークアカデミー ISBN978-4-908434-35-8 定価 本体1,525+税
参考図書	参考書は授業時に適宜知らせますが、Microsoft Windows11/10、Office365の書籍やインターネットなどで各自勉強してください。
授業に関する質問等の方法	担当教員にメールまたはMicrosoft Teams等で連絡するか、学習支援センターで質問してください。
備考	上記授業計画には明記していませんが、学生の状況を見ながら課題を与えたり復習をしたり、授業内容を変更する場合があります。

開講年度	2023	開講学期	秋学期
COURSE CODE 科目コード	RBD104	CLASS CODE 授業コード	85007
COURSE TITLE 科目名	情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）（Aクラス）（Utilization of InformationⅡ）	開講曜日・時限	火曜3限
SUBJECT TEACHER 【REPRESENTATIVE】 担当教員名【代表】	河本 順子		
SUBJECT TEACHER 担当教員			
授業形態	演習		
単位数	1単位		
MAJOR メジャー名			

COURSE OBJECTIVES 授業の目的	The object of the course is to understand and perform statistical procedures and techniques effectively, using Excel. Students will learn basic statistical procedures, important for the study of the nursing profession, through utilization of Excel. Furthermore, considering that AI and data handling skills have become general-purpose technologies in the Society 5.0 era, we aim to expand our knowledge in these areas. 看護について今後学んでいく上で重要となる統計処理について、Excelを利用して基本を学ぶ。Excelを用いて効率的に統計処理を行う手法について理解することを目標とする。加えて、AIやデータを取り扱うスキルがSociety5.0社会における汎用技術となることを踏まえ、その知見を広げる。
----------------------------	---

COURSE DESCRIPTION 授業の内容

①COMPETENCE DEVELOPMENT METHOD 能力開発メソッド	Study by repetition 繰り返し学習
②ASSIGNMENTS 課題レポート等	In almost every class you will be given assignments to do that will require application of knowledge and methods learned in class. ほぼ全ての回で、授業で習得した知識や技術を使う課題を出題する。
③COURSE OUTLINE 授業概要	You will learn the basics of processing statistical data using Excel and R, and applying analysis methods using these tools. 本授業では、Excelによる統計処理技術の基礎を学習し、それらの技術を活かした分析法の基礎を学ぶ。
AFTER-CLASS HOUR LEARNING 授業時間外学習	Review of lessons is critical to insure that you earn credit for the course. If you have trouble understanding a formula or anything else in the lessons, please do as much reviewing as you require. 単位修得のために復習が非常に重要です。数式の理解など、授業で躓いたところがあれば、各自しっかり復習してください。

COURSE SCHEDULE 授業計画

OBJECTIVES 目的	TOPICS 主題	OUTLINE 概要	AFTER-CLASS HOUR LEARNING 授業時間外学習
---------------	-----------	------------	-----------------------------------

01	Knowledge/abilities 知識／能力	Class guidance How to create a data file Overview of AI and Digital Society 授業ガイダンス AI・データ駆動型社会の概要	- Overview of statistics in the field of health - Types of statistical data - Health statistics indicators - Data utilization in AI and Data-Driven Society - 保健・健康分野における統計学の概要 - 統計データの種類 - 健康に関する統計の指標 - AI・データ駆動型社会におけるデータ活用	Report summarizing statistics to be learned 学習する統計についてまとめたレポート作成
02	Knowledge/abilities 知識／能力	Dataset creation using Excel Technologies for Data Utilization Excelを使ったデータセット作成 データ活用のための技術	- Enter survey data - Conversion of values (IF function) - Category integration (IF function) - Extract data - アンケートデータの入力 - 値の変換 (IF関数) - カテゴリの統合 (IF関数) - データの抽出	Create a dataset file according to the instructions 指示にしたがってデータセットのファイルを作成
03	Knowledge/abilities 知識／能力	Aggregation of collected data 集めたデータの集計	Frequency distribution table (Pivot table) 度数分布表 (ピボットテーブル)	Create frequency distribution table from given data 与えたデータから度数分布表の作成
04	Knowledge/abilities 知識／能力	Summary of collected data : Quantitative data 集めたデータの概要 : 量的データ	- Basic statistics - Typical value (average・Median・Mode) - Degree of application (dispersion・standard deviation) - 基本統計量 - 代表値 (平均・中央値・最頻値) - 散布度 (分散・標準偏差)	Calculate basic statistics 基本統計量の計算
05	Knowledge/abilities 知識／能力	Statistics graph basics 統計グラフの基本	- Box plot - Histogram - Scatter plot - 箱ひげ図 - ヒストグラム - 散布図	Create specified graph from given data 与えたデータから指定グラフの作成
06	Knowledge/abilities 知識／能力	Hypothesis testing 仮説検定	- Populations and specimens - Section estimation - Significance level - P value - 母集団と標本 - 区間推定 - 有意水準 - P値	Create a report summarizing the hypothesis test 仮説検定についてまとめたレポート作成
07	Knowledge/abilities 知識／能力	Relationship between two variables : Quantitative data 二変数の関係 : 量的データ	Correlation (CORREL function) 相関 (CORREL関数)	Find correlation between two variables using given data 与えたデータを使って二変数の相関を調べる

		二変数の関係： 量的データ		
08	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Relationship between t wo variables : Quantitat ive data 二変数の関係： 量的データ	t test (T.TEST function) t検定 (T.TEST関数)	Perform t-test using given data 与えたデータを使ってt検定の実施
09	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Report creation with W ord Wordを使ったレポート 作成	• Page layout (Section break) • Outline function • Style function • ページレイアウト (セクション区切り) • アウトライン機能 • スタイル機能	Prepare for report creation as instru cted 指示にしたがってレポート作成の 準備
10	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Report creation with W ord Wordを使ったレポート 作成	• Footnote • Header ・ Footer • Page number • Literature citation • 脚注 • ヘッダー・フッター • ページ番号 • 文献引用	Create Word file according to instru ctions 指示にしたがってWordファイルを 作成
11	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Report creation with W ord Wordを使ったレポート 作成	• Correlation coefficients • Creating a table of contents • 表紙の作成 • 目次の作成	Exercises and problems in the text Exercise handouts 指示にしたがってWordファイルを 作成
12	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Creating presentation materials using PowerP oint PowerPointを使ったプ レゼンテーション資料 作成	• Import outline • Working with slides • アウトラインの取り込み • スライドの操作	Think about the presentation theme 発表テーマを考える
13	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Creating presentation materials using PowerP oint PowerPointを使ったプ レゼンテーション資料 作成	• Reuse slides • Application of animation • スライドの再利用 • アニメーションの応用	Create slides using PowerPoint PowerPointを使ってスライド作成
14	Knowle dge/abil ities 知識／ 能力	Practicing presentation s using PowerPoint PowerPointを使ったプ レゼンテーションの実 践	Group announcement グループ発表	Practice of presentation 発表の練習
15	Knowle dge/abil ities	Summary of report crea tion using Office softwa re	• Final test • Summing up and review	

知識／能力	Officeソフトを使ったレポート作成のまとめ	・まとめ試験 ・まとめと振り返り					
Course goals／learning effect 到達目標と学習成果							
①Knowledge level 知識レベル		Learn to use Excel for statistical analysis Excelによる統計処理技術の習得					
②Ability level 能力レベル		Learn to use Excel for statistical analysis Excelによる統計処理技術の習得					
C-PLATS (Level)到達基準							
Communication コミュニケーション		Presentation プレゼンテーション		Leadership リーダーシップ		Ability to act 行動力	
Creativity 創造力		Planning ability 計画力	1	Theoretical thinking 論理的思考力	1	Analytical ability 分析力	1
Teamwork チームワーク力		Social responsibility 社会的責任					
Grading policy 成績評価の基準と方法		Your grade will be decided by the results of take-home assignments given at every class and the final test. A: 100% on assignments , 80% on final test B: 80% on assignments , 70% on final test C: 60% on assignments , 50% on final test D: Below 60% on assignments, below 50% on final test F: Doesn't satisfy requirements for D この授業の評価は、毎回の授業時に指示する授業課題（持ち帰り課題）、およびまとめ試験の結果で評価する。 A評価：各回の授業課題10割、試験8割 B評価：各回の授業課題8割、試験7割 C評価：各回の授業課題6割、試験5割 D評価：各回の授業課題6割未満、試験5割未満 F評価：D評価に満たないもの					
Textbooks 教科書		ていねいな保健統計学 著者 白戸亮吉, 鈴木研太 出版社 羊土社 ISBN 978-4-7581-0972-7 定価：2,000円＋税					
Reference books 参考図書							
Class related questions 授業に関する質問等の方法		Please contact the course instructor by email. 担当教員までメールで連絡のこと					
Note 備考		We will proceed according to the lesson plan, but will give assignments and move back or forwards as appropriate to the pace of student understanding. 授業計画に沿って進めますが、学生の理解度に応じて課題を与えたり授業内容を前後させたりする場合があります。					

I. 総合科目

国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部、経営学部、健康栄養学部

(1) ベーシック科目

「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」は、読み書き・プレゼンテーションなど、本学で学ぶすべての学生が最低限身につける能力と、広く一般から認められる「就業力」を育成するための授業科目です。その他の科目も、専攻への導入とは異なり、各分野における学修活動を通して「大学での学び方」を身につけるための授業科目として位置づけている授業科目です。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
キャリアデザインⅠ	演習	2	100	必修科目
キャリアデザインⅡ	演習	2	100	必修科目（「キャリアデザインⅠ」の単位を修得していること。）
キャリアデザインⅢ	演習	2	200	必修科目（「キャリアデザインⅡ」の単位を修得していること。）
キャリアデザインⅣ	演習	2	200	必修科目（「キャリアデザインⅢ」の単位を修得していること。）
哲学	講義	2	100	
史学	講義	2	100	
数学 e	講義	2	100	
生命科学 e	講義	2	100	
必修単位数		8		

備考欄の（ ）内は、先修条件を示す。
必修科目について、特に必要があると認める場合には、履修を免除することがある。（「授業科目、履修方法等に関する規程」参照）
授業科目名欄に、**e**の表示のある科目は、「eラーニング授業」を示す。

(2) 外国語科目

英語をはじめとして、外国語コミュニケーションスキルを身につける授業科目で、基礎レベルの科目のみが設置されています。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国語については、国際日本学部のコースの科目に続いており、それ以上のレベルの自主的な学修に対しては、各種技能審査（検定試験）における成果に基づいて単位を与えます。また、LEO科目とは、ネイティブスピーカーの教員がレベル別に英語で行う授業科目です。

授業科目名	授業形態	単位	レベル	備考
英語Ⅰ	演習	1	100	必修科目※注1
英語Ⅱ	演習	1	100	（「英語Ⅰ」の単位を修得していること。）
ドイツ語Ⅰ	演習	1	100	
ドイツ語Ⅱ	演習	1	100	（「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得していること。）
フランス語Ⅰ	演習	1	100	
フランス語Ⅱ	演習	1	100	（「フランス語Ⅰ」の単位を修得していること。）
スペイン語Ⅰ	演習	1	100	
スペイン語Ⅱ	演習	1	100	（「スペイン語Ⅰ」の単位を修得していること。）
中国語Ⅰ	演習	1	100	
中国語Ⅱ	演習	1	100	（「中国語Ⅰ」の単位を修得していること。）

備考欄の（ ）内は、先修条件を示す。

（次のページに続く）

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
韓国語Ⅰ	演習	Ⅰ	100	
韓国語Ⅱ	演習	Ⅰ	100	(「韓国語Ⅰ」の単位を修得していること。)
Beginner Listening PracticeⅠ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner Writing PracticeⅠ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner GrammarⅠ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner ConversationⅠ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner ReadingⅠ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner Listening PracticeⅡ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner Writing PracticeⅡ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner GrammarⅡ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner ConversationⅡ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Beginner ReadingⅡ	演習	Ⅰ	100	LEO 科目
Academic English StudiesⅠ	演習	Ⅰ	100	
Academic English StudiesⅡ	演習	Ⅰ	100	
必 修 単 位 数		Ⅰ		

備考欄の（ ）内は、先修条件を示す。

※注Ⅰ 国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部及び経営学部に所属する外国人留学生は「英語Ⅰ」の修得は不要。

〔外国人留学生のための日本語科目〕

国際日本学部、建築&芸術学部、現代社会学部及び経営学部に所属する外国人留学生のみが履修をする科目です。以下の科目の中から、必修及び選択必修を含めて6単位以上の修得が必要です。選択必修科目については、Ⅰ年次の必修科目内で指示を受けた科目を履修し、修得してください。

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
日本語総合AⅠ	演習	Ⅰ	100	必修科目
日本語総合AⅡ	演習	Ⅰ	100	必修科目
日本語総合BⅠ	演習	Ⅰ	100	必修科目
日本語総合BⅡ	演習	Ⅰ	100	必修科目
日本語会話（中級）Ⅰ	演習	Ⅰ	200	2 単位以上選択必修 「日本語総合AⅡ」「日本語総合BⅡ」の授業で指定を受けた科目の修得が必要。
日本語会話（中級）Ⅱ	演習	Ⅰ	200	
日本語会話（上級）Ⅰ	演習	Ⅰ	300	
日本語会話（上級）Ⅱ	演習	Ⅰ	300	
日本語読解（中級）Ⅰ	演習	Ⅰ	200	
日本語読解（中級）Ⅱ	演習	Ⅰ	200	
日本語読解（上級）Ⅰ	演習	Ⅰ	300	
日本語読解（上級）Ⅱ	演習	Ⅰ	300	
日本語作文（中級）Ⅰ	演習	Ⅰ	200	
日本語作文（中級）Ⅱ	演習	Ⅰ	200	
日本語作文（上級）Ⅰ	演習	Ⅰ	300	
日本語作文（上級）Ⅱ	演習	Ⅰ	300	
日本語語彙・文法Ⅰ	演習	Ⅰ	100	
日本語語彙・文法Ⅱ	演習	Ⅰ	100	

(次のページに続く)

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
日本語聴解・会話Ⅰ	演習	1	100	
日本語聴解・会話Ⅱ	演習	1	100	
Basic Japanese Conversation	演習	1	100	交換留学生等のみ履修可
必 修 単 位 数		6		

(3) 情報機器の活用とプレゼンテーション科目

社会に出るために必要な情報機器の操作と、プレゼンテーション能力をより高めるための授業科目です。

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
情報活用Ⅰ	演習	1	100	必修科目
情報活用Ⅱ	演習	1	100	
表計算演習	演習	2	200	
A I ・データサイエンスの扉	オ 講義	2	100	
情報機器プレゼンテーション	e 講義	2	100	
教養としてのA I ・データ活用	オ 講義	2	200	(「情報活用Ⅰ」「A I ・データサイエンスの扉」の単位を修得していること。)
教養としてのA I ・データ活用 (実践演習)	演習	2	200	(「教養としてのA I ・データ活用」の単位を修得していること。)
プレゼンテーション概論	e 講義	2	100	
プレゼンテーション演習基礎	演習	2	100	
日本語プレゼンテーション	講義	2	200	
必 修 単 位 数		1		

授業科目名欄に、**オ**の表示のある科目は、「オンデマンド授業」を、**e**の表示のある科目は、「eラーニング授業」を示す。備考欄の()内は、先修条件を示す。

(4) スポーツ・健康科目

講義科目である「保健体育」と、スポーツ実技を中心とする授業科目があります。特に後者は、競技や体力増強を図るための科目だけでなく、心身をリフレッシュする科目や、運動が苦手な学生のための科目も設置されています。

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
保健体育	講義	2	100	
バレーボール	実技	1	100	
バスケットボール	実技	1	100	
バドミントン	実技	1	100	
軽スポーツ	実技	1	100	
レクリエーション&スポーツ	実技	1	100	
フィットネス&スポーツ	実技	1	100	
コミュニケーション・スポーツ	実技	1	100	
ヨーガ&ピラティス実習	実技	1	100	
健康ボディケア実習	実技	1	100	
ボディワーク&コミュニケーション実習	実技	1	100	
必 修 単 位 数		0		

年度により開講されない科目がある。
教職課程履修者は、上表より2単位以上の修得が必要。

(5) キャリアアップ科目

将来の進路を意識し、社会に出るために必要な知識や、就業力をより高めるための体験をともなう授業科目です。選抜された学生だけが履修できる科目もあります。

授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
P B L 特別演習Ⅰ	演習	4	100	
P B L 特別演習Ⅱ	演習	4	200	
P B L 特別演習Ⅲ	演習	4	300	
P B L 特別演習Ⅳ	演習	4	400	
Global Career Seminar A	演習	2	100	
Global Career Seminar B	演習	2	200	
Global Career Seminar C	演習	2	200	
Global Career Seminar D	演習	2	300	
留学生のためのビジネスマナー・作文	演習	2	300	国際日本学部、建築＆芸術学部、現代社会学部、経営学部外国人留学生等対象
地域貢献 P B L 複	演習	2	200	
Community Development PBL (GJS)	演習	2	200	交換留学生のみ履修可
インターンシップ 複	演習	2	200	
Internship (GJS)	演習	2	200	交換留学生のみ履修可
サービスラーニング	演習	2	300	
職業選択演習 複	演習	2	300	
職業選択演習応用	演習	2	300	(「職業選択演習」の単位を修得していること。)
必 修 単 位 数		0		

授業科目名欄に、**複**の表示のある科目は、年度により内容の違う授業が開講され、複数回の修得が可能。内容の違いは授業科目名の後ろに【 】で示される。

国際看護学部

(I) 基礎分野

多様な人々の価値観や文化の違いを受容し行動するグローバル人材として国際化する社会で活躍するための基盤的能力を身に付けるための授業科目です。

具体的には、以下の科目を開講します。

- ・必要な情報を自ら収集し、ものごとの本質について深く考える能力を身に付ける科目
- ・自分の考えを外国語を含む言葉で表現する資質を養う科目
- ・医療・健康・病気を国家や民族における文化の多様性や、地域に暮らす人々の多様性に着目して学ぶ科目
- ・看護学・医学の基礎知識を学ぶために必要となる化学や生物学について学ぶ科目
- ・情報機器の基本操作や看護研究に必要な統計の知識を学ぶ科目
- ・自身の健康を維持するために必要なストレスコーピングや身体のケアについて学ぶ科目

科目区分	授 業 科 目 名	授業形態	単位	レベル	備 考
リベラルアーツ	キャリアプランニングⅠ	演習	1	100	必修科目
	キャリアプランニングⅡ	演習	1	200	必修科目
	生命・医療倫理	講義	1	100	必修科目
	哲学入門	講義	1	100	* * * } *の5科目5単位から3単位以上を修得すること。
	法学の基礎	講義	1	100	
	国際社会学	講義	1	400	
グローバル社会と言葉	Practical English I for Nurses	演習	1	100	必修科目
	Practical English II for Nurses	演習	1	100	必修科目
	Academic Writing & Debate	演習	1	300	必修科目
	Student-friendly English for nursing	演習	1	100	
	English for healthcare careers	演習	1	200	
	看護のための中国語	演習	1	100	} 「看護のための中国語」または「看護のための韓国語」のいずれか1単位を修得すること。
	看護のための韓国語	演習	1	100	
	Basic Communication in Global Context	演習	1	200	} 「Basic Communication in Global Context」または「Listening & Speaking in a Global Society」いずれか1単位を修得すること。
	Listening & Speaking in a Global Society	演習	1	200	
社会と文化	大阪・神戸における多様な共生社会と文化	講義	1	100	必修科目
	医療人類学	講義	2	100	必修科目
	情報倫理	講義	1	100	* * } *の5科目5単位から3単位以上を修得すること。
	国際政治・経済	講義	1	100	
科学と情報	化学	講義	2	100	必修科目
	生物学・細胞生物学	講義	2	100	必修科目
	情報活用Ⅰ	演習	1	100	必修科目
	情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）	演習	1	100	必修科目
セルフケアと	スポーツ生理学	実技講義	1	100	必修科目
	スポーツと健康	講義実技	1	100	必修科目
必修単位数			22		

プログラムのねらい

社会のニーズに応え、統計的な考え方やデータの読み解き方、さらには人工知能をはじめとする先端デジタル技術を活用する力など、デジタルリテラシーを身につけた人材を育成する。

プログラムの学修成果

デジタル技術やデータに対して自らの意志で適切な活用や判断ができる力を身につけ、人工知能をはじめとする先端デジタル技術やデータサイエンスの恩恵を享受できる素養を深めることができる。

プログラム（リテラシーレベル）の修了要件

- < 国際日本学部・建築&芸術学部・現代社会学部・経営学部・健康栄養学部 >
 - ・「情報活用Ⅰ」「AI・データサイエンスの扉」をすべて修得すること。
- < 国際看護学部 >
 - ・「情報活用Ⅰ」「情報活用Ⅱ（含医療情報の統計学）」をすべて修得すること。

組織・体制

役割	機関
プログラムの運営・改善	コア教育連絡協議会
プログラムの自己点検・評価	自己点検・評価委員会

学びのステップ

